

# 大雪山

札幌管区气象台  
地域火山監視・警報センター

## ○火山活動評価

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## ○噴火警報・予報の状況、2020年7月～2021年6月の発表履歴

変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------	----------------------------

## ○2020年7月～2021年6月の活動概況

### ・噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①②）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

### ・地震及び微動の発生状況（図2-③～⑤、図3）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。



図1 大雪山 西側から見た地獄谷爆裂火口の状況（ちゅうべつこひがし忠別湖東監視カメラによる）

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。

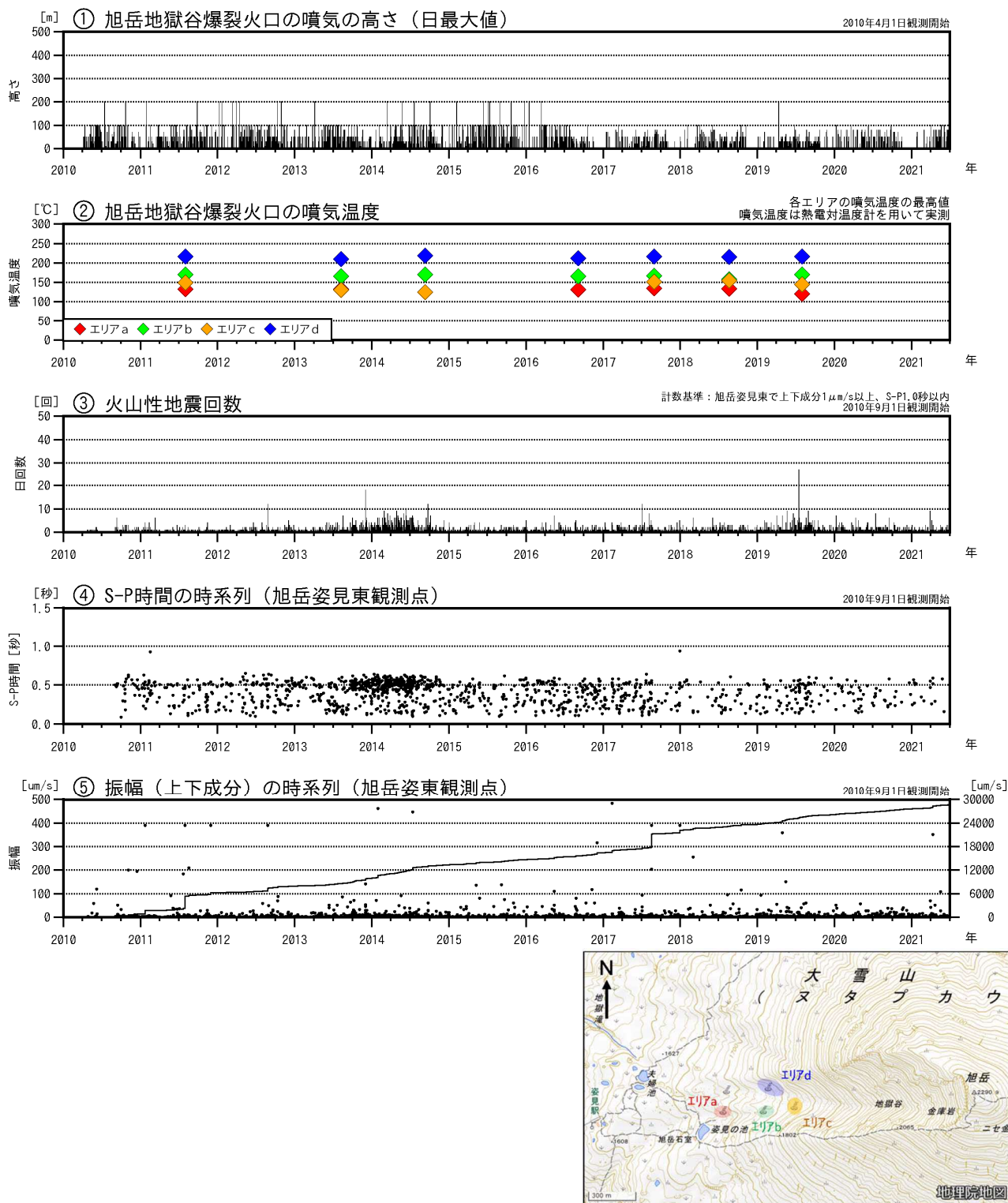


図2 大雪山 地獄谷爆裂火口の状況と活動経過図 (2010年4月~2021年6月)

②は、噴気温度の測定位置図中のエリアa~dの噴気孔群ごとの最高温度をプロットしています。

・噴気活動に大きな変化はなく、地震活動は低調に経過しました。

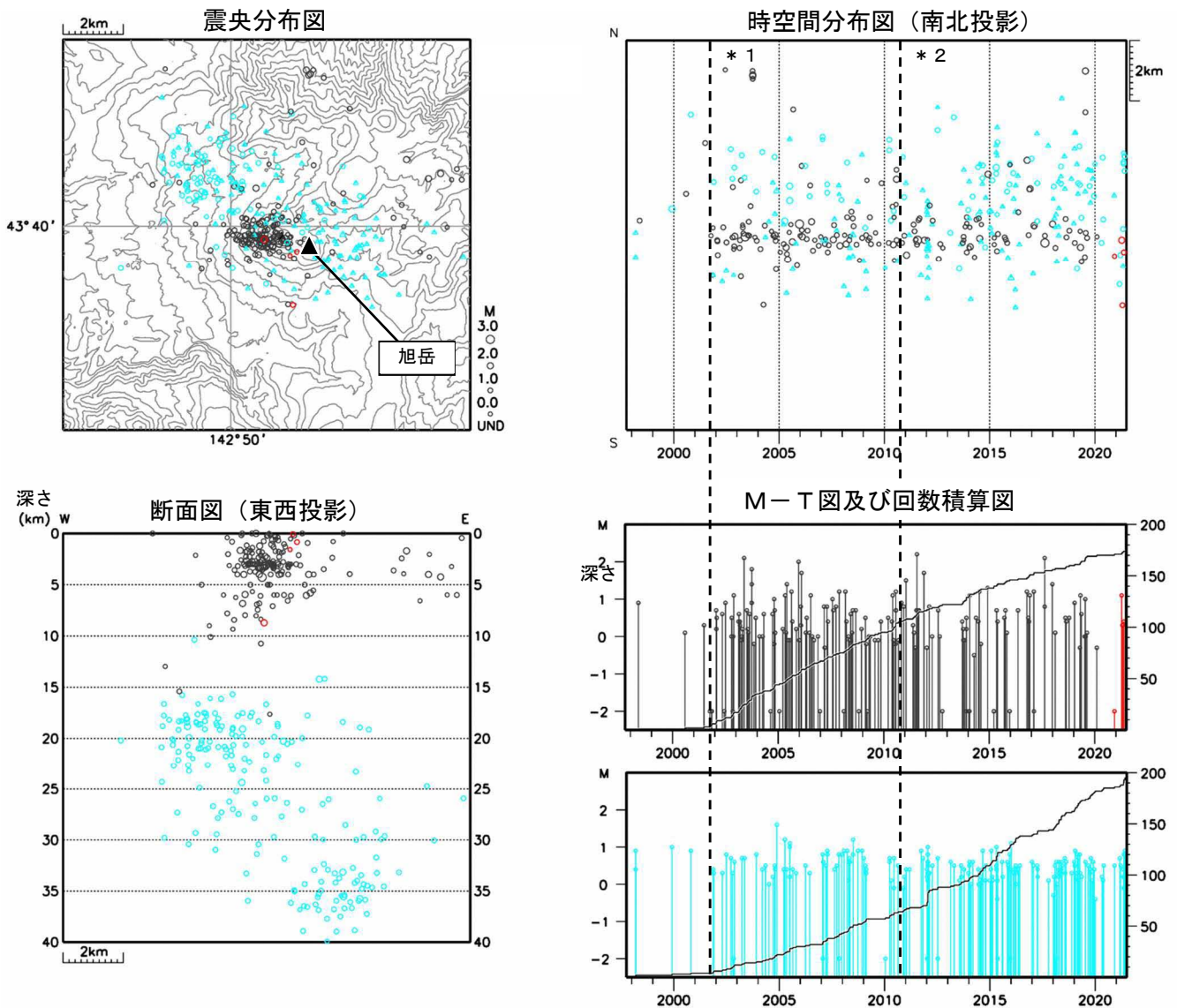


図3 大雪山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動

(1997年10月～2021年6月、 $M \geq 0.5$ 、深さ40km以浅)

○：1997年10月1日～2020年6月

○：2020年7月～2021年6月

○：深部低周波地震

\* 1：2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知能力が向上しています。

\* 2：2010年10月以降、火山観測点の追加に伴い検知能力が向上しています。

2020年9月以降の震源は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められています。

2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化(増減)が見られます。

- ・今期間、地震は旭岳の地獄谷付近で発生しました。

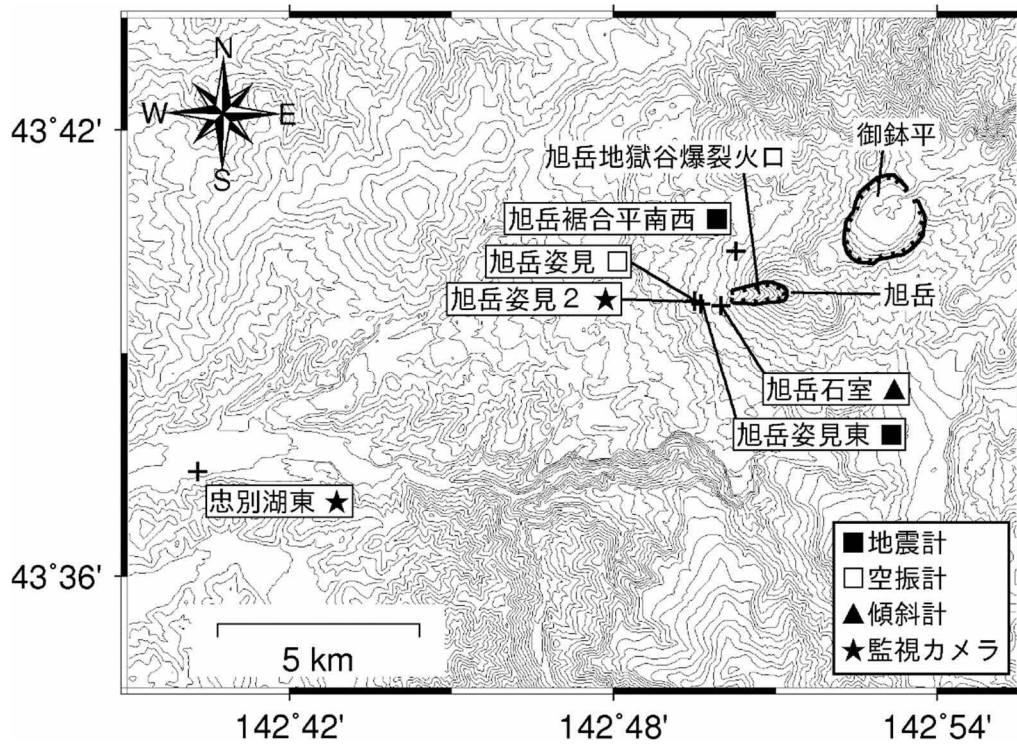


図4 大雪山 観測点配置図  
+印は観測点の位置を示します。